

児童詩（5年）

季節の中で 詩集を読んで

指導目標

季節の変化など、自分の心でとらえたことを題材に選び、表現を工夫して詩に書く。

教材について

季節の移り変わりにつれて人の心も動いている。気候の変化や動植物の変化のみならず、郷土や学校行事、暮らしも季節の移り変わりとともにあり、子供たちはそこに生き、発見したり、感動したり、自分の生き方を見つめ直したりしている。五年生では、一年の季節の変化の中で、物や人、地域・社会や自分自身を見つめ、新たに発見したり感じたりしたことを、表現を工夫して詩に書き表していくことをねらっている。

「もくれん」は、夏の訪れを、季節外れの木蓮に見いだす作者だけの目がある。「秋」は、ふとした時に感じる秋の訪れを、五感をとおして四つの連で書き表している。二つの詩から、季節の中でのふとしたできごとやわずかな変化をとらえることを、集材の一つとして気づかせていく。そして、表題「詩集を読んで」にあるように、たくさんの詩集に触れさせることをとおして題材の広がりを求めるとともに、事象を見つめる心を育てたい。

学習にあたって、詩ならではの言葉の美しさや響き、リズムなどを意識して効果的に表現することに気づかせる取り組みとして、ウェブページで体験を掘り起こし言葉のイメージを広げたり、伝えたいことが強調するために構成を考えたりする活動を組み入れてみた。また、作品を友達と読み合うことで、効果的に表現を工夫することのよさや、お互いの感じ方のよさや違いに気づくことができると思われる。学習をとおして、日常の中に価値あることを見つけ感動する感性を育み、豊かな表現力を育てていくことを期待したい。

指導にあたっては、帯単元のような扱いで詩を書く学習を位置づけ、継続して書く場を設定したり、読書の時間や、朝自習、朝の会・帰りの会などを生かして、できるだけ多くの詩に親しませ、友達の書いた作品を読み合う場を設定したりすることも大切である。作品を生かす場としては、作品集の他に特別活動でかわりのあった学年や、総合的な学習の時間でゲストティーチャーに来てくださった方への「詩の贈り物」、テーマごと学級掲示など、学校や子供たちの実態に合わせた活動を計画していきたい。

「B書くこと」の目標と内容

目 標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。

内 容

- (1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 目的や意図に応じて、効果的に書くこと。

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること。

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

学習指導計画（全4時間）

展開時	学習活動	留意点
1	<p>「もくれん」「秋」を読み，作者の感動や表現の工夫について話し合い，学習のめあてをつかむ。</p> <p>1．「もくれん」「秋」を読み，気がついたことを教科書に書きこむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対比から読み取れること ・色や音 ・情景から想像したこと ・叙述の工夫があるところ など <p>2．書きこみを発表し，表現の工夫や作者の感動について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの詩で共通するところがないか考えましょう。 ・作者は，どんなことに季節を感じているでしょう。 ・表現の工夫はありませんか。 <p>3．P 62～P 63を読んで，創作のめあてをつかむとともに，アンソロジー集を作ることを知る。</p> <p>4．プリントされた詩を読み，テーマを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">テ ー マ</p> <p style="text-align: center;">四季の中で生きる 友達って何だ 家族を見つめて 人・その生き方 社会・暮らしを考える 自分自身</p> </div> <p>5．同じように心が動いた体験を発表する。</p> <p>6．自分の作品に生かしたい表現をメモする。</p> <p>7．生活の中から詩の題材を探しておくことを知る。</p>	<p>・第1時の話し合いの中から詩を書く観点にできそうな意見を短冊化し，集材・選材・記述・推敲の授業に生かす。</p> <p>関：描かれた風景を想像したり，表現の特徴に気づいている。（発表・教科書への書き込み）</p> <p>・学級や子供の実態に応じて活動を決める。</p> <p>・「季節」「友達」「家族」「人」「社会・暮らし」「自分自身」などの観点から数編の詩を選び，プリントしておく。</p> <p>関：作品に取り入れたい表現の工夫についてノートにメモしている。（ノート）</p>
2 本時	<p>テーマにそって自分の書きたい題材を整理し，ワークシートに書く。</p> <p>1．詩に書く題材をメモし，イメージを広げる。</p> <p>2．いちばん伝えたいことが強調されるように組み立てを考えてワークシートに書く。</p>	<p>・前時に書いた「短冊：詩を書く観点」から，集材・選材に生かせるものを掲示する。</p> <p>書：テーマに合わせて生活を振り返り，心が動いたことを題材を選んで書いている。（ワークシート）</p> <p>書：ワークシートに簡単な組み立てを書いている。（ワークシート）</p>

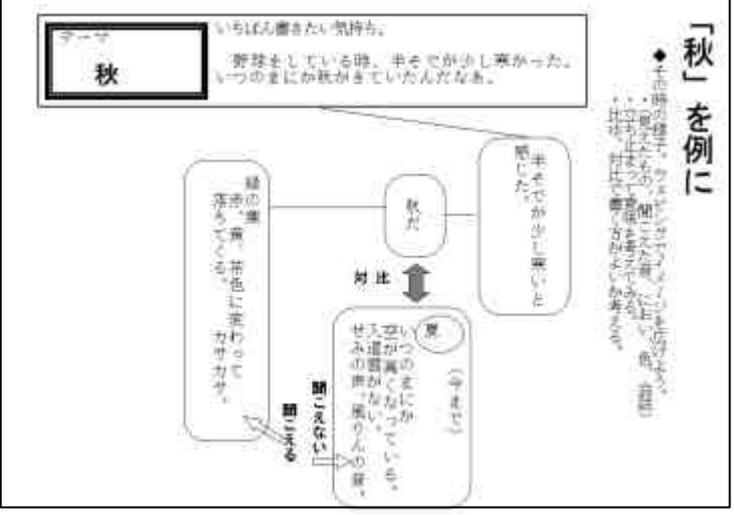
展開時	学習活動	留意点
3	<p>テーマに合わせて、詩を書く。</p> <p>1. 書きたい詩の題材を確認する。</p> <p>2. 表現の仕方、推敲の仕方を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">思いを表現するために</p> <p>書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、その場でしているように、見ているように書く。 ・詩の言葉で書く。 </div> <p>3. 詩を書く。読み返して表現を工夫したり、必要のない言葉を削ったりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">書きたい言葉をつかむために</p> <p>見直し</p> <p>(1) 詩の世界に引きこむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題は詩の一行め。 ・書き出し。よけいな説明はないか。その言葉がなくてもわかるよけいな説明はないか。 ・説明でなく感覚(見たこと, におい, さわったこと, 聞こえたこと)で書いたほうがよいところはないか。 <p>(2) 想いをみがく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くり返し, 名詞止め, 比喩, 擬人法, 倒置法, 対比で書いたほうがよいところはないか。 ・連にしたほうがよいところはないか。 ・普段の感じ方をこえた目があるか。 ・ぴかりと光る言葉で書いているか。 <p>(3) 本当のことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーすぎる言葉になっていないか。 <p>(4) まちがいはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・句読点, 文字, 改行は正しいか。 </div> <p>5. 本時のまとめと次時の予告。</p>	<p>・「短冊：詩を書く観点」から、記述に生かせるものを掲示する。</p> <p>・前時のワークシートやノートを見るよう助言する。</p> <p>言：題名や書き出し、連の分け方、様子を表す言葉などに気を使いながら表現している。(作品)</p> <p>学級の実態に応じて、見直しの観点を絞ることも考えられる。</p> <p>書：推敲の観点がわかり、よりよい表現に直している。(作品)</p> <p>・観点の一部を直していればよい。</p> <p>・声に出して読ませ、工夫できる点がないか考えさせ</p>
4	<p>互いに読み合い、さらに効果的な表現になるように工夫して作品を完成させる。</p> <p>1. テーマごとに分かれ、友達の作品を観点にそって読み、自分だったらこう書くと言う点をアドバイスしたり、よい点を付箋紙に書いたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>一人ずつ発表(工夫したことを発表・詩を読む)</p> <p>アドバイス</p> <p>発表者：アドバイスを受け、直したい部分を直す。</p> <p>聞き手：よかった点を付箋紙に書く。</p> </div> <p>2. 作品を学級に掲示する。</p>	<p>関：友達の作品の良い点や、アドバイスする点を伝えようとしている。</p> <p>(付箋紙・発言)</p> <p>・連の分け方、比喩や名詞止めなど工夫する方法をいくつか示す。</p>

本時の展開（本時 2 / 4）

目 標

- ・テーマにそって自分の書きたい題材を整理し，ワークシートに書くことができる。

展開例

学習活動・学習内容	留意点	評価・支援
<p>1. 学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>詩に書きたいことをよく思い出し，整理しましょう。</p> </div>		
<p>2. 書きたいテーマを確かめる。 3. 題材をメモし，イメージを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ ・いちばん書きたいこと ・ウェビングでイメージ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉つぶやき発言。 ・前時の「短冊：詩を書く観点」で，集材・選材に生かせるものを掲示。 ・ノートに書かれた「自分の作品に取り入れたい表現」も参考にさせる。 ・書き終わり次第，組み立てに入るよう指示する。 	<p>書：テーマに合わせて生活を振り返り，心が動いたことを思い出して書いている。</p> <p>(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五感を使って思い出したり，立ち止まって意味を考えたり，想像を広げたりするよう助言する。 ・比喩や擬人法などが使えないか助言する。
<p>4. いちばん伝えたいことが強調されるように組み立てを考えてワークシートに書く。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態に応じたワークシートを利用させたい。 自分で記入できる場合 ワークシートA ヒントが必要な場合 ワークシートB 進んだ学習が可能な場合，詩集から自分で見つけた詩の書き方をメモしたものを利用する。ワークシートC 	<p>書：ワークシートに簡単な組み立てを書いている。</p> <p>(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントが書かれたワークシートBを参考にするよう助言する。
<p>5. 本時のまとめと次時予告。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩を書くことを知る。 	

詩に書く前に

書きたいことをはっきりさせて、思いがよく伝わるように構成や言葉を考えておきましょう。

その時の様子。ウエビングでイメージを広げよう。
 (見えたもの、聞こえた音、におい、色、会話)
 ・立ち止まって意味を考えてみる。
 ・比喩、対比で書くほうがよいか考える。

ワークシートA 詩の組み立てを考える。

いちばん書きたい気持ち。 した時、~と思ったこと。

テーマ

結	転 承	起 書き出し	題	書くこと
<div style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; width: 90%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; width: 90%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; width: 90%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; width: 90%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border-left: 1px dashed black; border-right: 1px dashed black; width: 90%; margin: 0 auto;"></div>

ワークシートB 詩を書くヒント

結	転 承 <small>しやう</small>			書き出し 起	題		
<ul style="list-style-type: none"> ・作文のまとめとは、ちがう。 ・そう思っていないのに、反省したりしない。 ・比喩、擬人法、倒置法で終わる。 ・見たままの様子を描写して終わる。(現在形・過去形) ・思ったことを終わる。静かに思う。 	<p>社会・くらし〓情報ノートから考えたことを。</p>	<p>家族〓 いつもと違う家族の姿、温かさを感じる会話、働く姿などを発見して、描写する。 連、現在形・過去形、対比などを使ってみる。 心に残った言葉や姿はないか。 家族に対する考えが深くなったことはないか。</p>	<p>友達〓 「友達とはこういうもの」と頭で書かない。 ある時のできごとや、その時の気持ちをよく思い出して描写する。 なぜそうだったのか立ち止まって考えると新しく見えてくるものがあるかも。 連、現在形・過去形、対比などを使ってみる。</p>	<p>自然〓 頭で書かない。自分で体験したことを言葉にする。(目・耳・手・鼻などの五感をとおして)だれでも感じることでなく自分だけの発見を書く。 比喩や擬人法を使って、想像を広げ、言葉を見がく。</p>	<p>書き出し 起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ、どこで、何をした」と書きたいもの。推測の段階でけずることも考える。題に語らせるのも、会話から入る。 	<p>題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比喩で書く。 ・名詞にする。 ・詩の一行めとして、場所・状況などを説明させる。 ・題を読んで、結末がわかってしまつようなものは×。 	<p>詩を書くヒント</p>

ワークシートC ぼく・わたしの詩のてびき 詩集から発見して

結	転 承 <small>しやう</small>			書き出し 起	題	
<p>-----</p>	<p>-----</p>	<p>-----</p>	<p>-----</p>	<p>-----</p>	<p>-----</p>	<p>詩を書くヒント</p>